

都市再生整備計画 事後評価シート
千里山駅周辺地区(第2期)

令和2年1月

大阪府吹田市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	大阪府	市町村名	吹田市	地区名	千里山駅周辺地区(第2期)			面積	13ha			
交付期間	平成28年度～平成30年度	事後評価実施時期	令和元年度	交付対象事業費	39.9百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(吹田箕面線(駅西区间)歩道整備)、地域生活基盤施設(ポケットパーク)									
		提案事業	-									
	当初計画から削除した事業	基幹事業	道路(吹田箕面線(踏切～交番前)歩道整備) 道路(吹田箕面線(交番跡地)歩道整備) 地域生活基盤施設(西駅前広場整備)	道路事業においては、その整備目的、指標への影響等を明確にするため、3区間に分けた計画としていた。しかし、植樹等によるオープンスペースとしての整備を予定していた交番跡地区間において、交通管理者との協議により、交通量の多い交差点であることから、通常の歩道としての整備が求められる等、3区間の道路事業の目的等が近似する計画となった。そのため、3区間に区分する必要がなくなったことから、道路事業を統一する。 地域生活基盤施設においては、西駅前広場事業用地の一部で交渉が難航し、用地の取得が困難となったことから、地域生活基盤施設(西駅前広場)を取りやめる。なお、指標への影響は指標3(景観形成満足度)に影響することが考えられる。				【道路】影響はなし 【地域生活基盤施設】影響あり				
		提案事業	事業効果分析調査事業	最終年度である平成30年度での執行を予定していたが、全ての工事が完了し、一定期間、道路利用されてから実施することで、より正確な評価が可能となることから、事業期間外とはなるが、翌年である平成31年度に市費にて行うこととする。				影響はなし				
		新たに追加した事業	基幹事業	-	-				-			
	交付期間の変更	当初	平成28年度～平成30年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更	なし									
	2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標	単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
		指標1	歩道整備状況満足度	%	31.7	H27	45.0	H30	33.0	△	あり	吹田市市民意識調査の結果では目標値を達成することが出来なかったが、これは、 ①市内全体の道路状況に対する関心が高まったこと ②吹田市市民意識調査を実施した時期が、当該歩道整備が完成した時期と近い時期であったことにより、市民への周知が不足したこと という2つの大きな理由から、目標未達成に繋がったと考えられる。
指標2		歩行者空間通行率	%	90.6	H27	95.3	H30	96.1	○	あり なし	もともと高い値を示していたが、より多くの人が歩行者空間を通行するようになり、安全性が高まった。	-
指標3	景観形成満足度	%	52.7	H27	60.0	H30	84.0	○	あり なし	今回の事業により、より景観満足度が向上することとなったが、駅前整備の完了が要因の一つと考えられる。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1	歩道整備状況前後の状況確認による満足度	%	/		/		66.4	/	あり	吹田箕面線(駅西区间)の歩道整備前後の状況が分かる写真を提示する形で現地におけるアンケート調査(当該整備道路についての満足度)を実施したところ、全回答者(250名)の内、66.4%の人が満足・やや満足と回答した。よって、歩道整備状況の満足度を補強できるものであると考えられる。	-
	その他の数値指標2	/										
4)定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> 歩道を整備したことにより、歩行者の安全性が向上した。 ポケットパークを整備したことにより、市民のための憩い空間が創出され、市民の景観満足度も向上した。 千里山駅西側空間のデザインワークショップが計2回開催され、市民の街並みへの関心を高めることができた。 											
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-					
	住民参加プロセス	吹田市都市整備部による「千里山駅西側空間のデザインワークショップ」の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 今後も市民に望まれる駅前空間の実現を目指し、適切な維持管理を図り、市民が利用しやすい環境を維持する。					
持続的なまちづくり体制の構築	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-						

様式2-2 地区の概要

千里山駅周辺地区(第2期)(大阪府吹田市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
大目標: 千里山の玄関として安全・安心な都市機能と良好な環境を備えた市街地の形成	歩道整備状況満足度	単位: %	31.7	H27	45.0	H30	33.0	H30
目標1: 歩道拡幅及び整備による交通安全性と歩行快適性の向上	歩行者空間通行率	単位: %	90.6	H27	95.3	H30	96.1	R1
目標2: オープンスペース整備による安全性と快適性及びまちなみ景観の向上	景観形成満足度	単位: %	52.7	H27	60.0	H30	84.0	R1
目標3: 緑あふれ、うるおいがある美しいまちづくり								



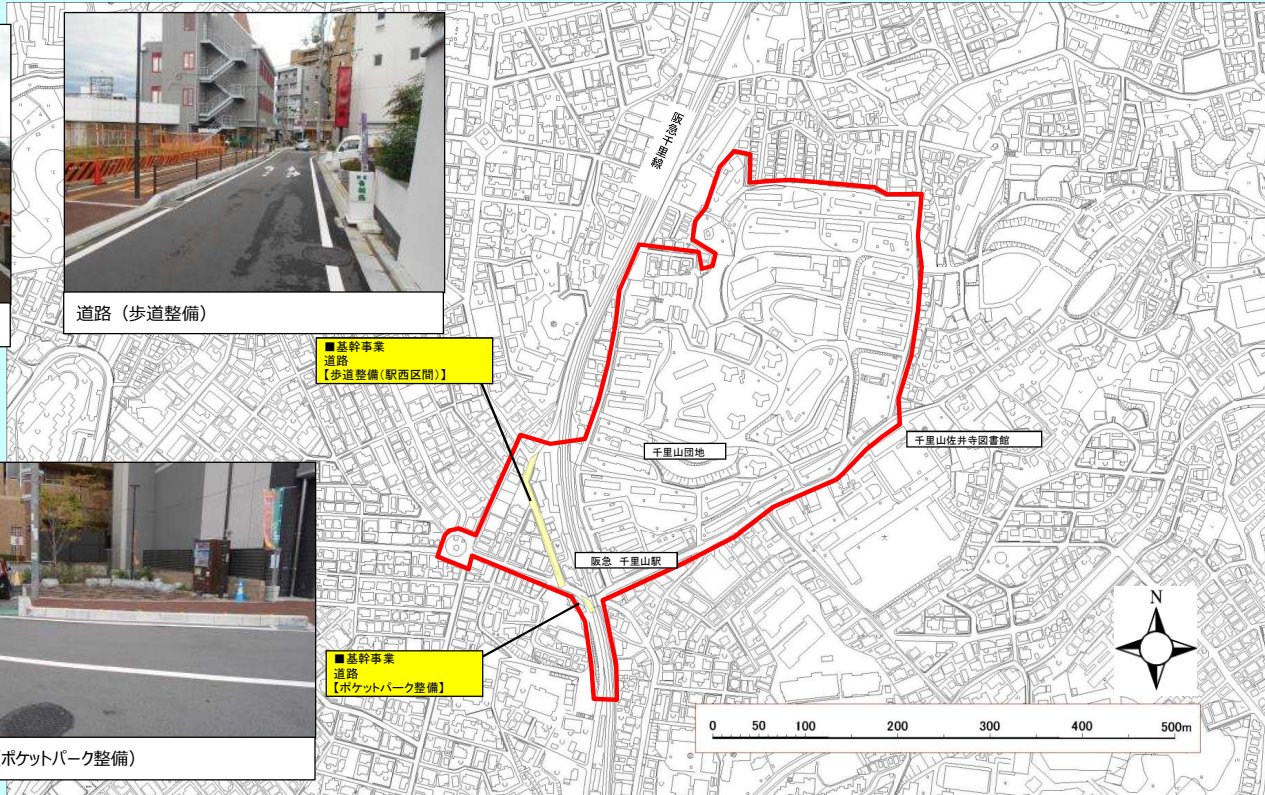
道路 (歩道整備)



道路 (歩道整備)



道路 (ポケットパーク整備)



■ 基幹事業
道路
【歩道整備(駅西区間)】

■ 基幹事業
道路
【ポケットパーク整備】

まちの課題の変化

- ・歩道の整備率が上がるとともに、歩行者の安全性や快適性が向上した。
- ・また、ポケットパークの整備により、市民のための憩い・ゆとり空間が創出されるだけでなく、景観への満足度も向上した。

今後のまちづくり
の方策
(改善策を含む)

- ・歩行者の安全性及び快適性の確保を目指し、歩道の安全性及び快適性を確保するための適切な維持管理業務を行っていく(歩道の維持管理業務等)。
- ・駅前のゆとり空間の有効活用を目指し、駅前のゆとり空間及び景観を維持するための適切な維持管理を行っていく(駅前のゆとり空間及び景観の維持管理業務等)。